

## 夏期研修 とびっくす

— S. 55年度 —

(第一生命ホール)

## TOPICS

〈前期〉—— 7月28日(月) 29日(火) —— 「音楽の基礎教育を考える」 ——

「日本のこどものための  
ピアノ導入法を考える」

間宮芳生氏

今回は、間宮先生御自身がお創りになった日本のピアノ・メソッド“にほんのこども”について、曲集の特徴の中で先生が意図されたこと、また指導していく上で様々な問題点など、詳しい講義をしていただいた。この曲集の土台となっている日本の民族的な音組成についてのお話はとても興味深いものであった。



「この曲集は、ほく自身であり、日本中のピアノの大好きな人たちへの贈り物です。」

「ペダリングと音質を  
主としたピアノ奏法研究」

大西愛子氏

現カリフォルニア大教授、大西先生は、トビアス・マッティの演奏法に基づいて、日本ではなかなか聞く機会のない“ペダルの使い方とその可能性”についてお話して下さった。基礎的な、ピアノの楽器としてのシステムのお話に始まり、オーバーラッピング、ハーフ・ダンピング、トリルペダルなどそれぞれのペダリングを体系づけ、その効果を、現役ピアニストとしてすばらしい演奏で示された。

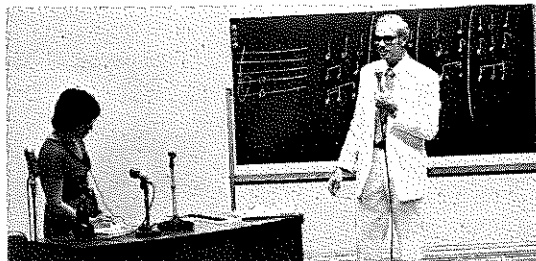


「半音、特に低音部の半音はきたなく響きがちなので、ペダルの使い方には注意しなければなりません。」

## 「初見力と演奏力を養う指導法」

ジェームス・バスティン氏

バスティン・ライブラリーの著者であり、作曲家、ピアニストである氏が、著者として、また現場の教師としての立場から「初見の練習」を使つての効果的指導法について講義して下さいました。実際、何人かの生徒をステージの上でモデルレッスンして下さいました、各教本と他の教材との関連など参考になった点が多かった。



「私は音大生の時に、移調奏ができずに苦労し、そういった経験から、このメソッドを工夫しました。」

## 「幼児の全調指導の

### 方法と実際」

ジェーン・バスティン氏



ジェーン先生のレッスンを受ける木内あかねちゃん。

昨年に続いて来日されたジェーン先生は、モデル・レッスンの中で、幼児がどのように全調、移調奏を体得していくかについてお話して下さいました。先生持ち前の明るさで講義を盛り上げられ、4才のあかねちゃんもかわいらしい演奏を聞かせてくださった。

講座の後半では、新しい曲集「ポップ・ピアノ・スタイル」が、楽しいお話と演奏で紹介された。

## 「幼児から始める創作指導」

池田早梅氏



「見たもの、聞いたものをそのまま音を使い、遊びから発展させてゆきます。」

教育大附属小、桐朋音楽教室など音楽教育畑を歩まれた豊かな体験から、グループ・レッスンの模範を舞台の上で披露して下さいました。池田先生御自身、現場で子供たちを教えていらっしゃる、講座を聞きにいらした先生方と同じ問題にぶつかり、同じ悩みを持っていらっしゃるの、毎日のレッスンに役立つアイデアをたくさん学ばせていただいた。

## 「ソナチネを創ろう」

中村佐和子氏



「“キリッと行って、スパッと立つ……”ほらこんな風に弾くとその言葉どおり聞こえるでしょ？」

国立音大の先生の講義では、座席がなくなるほど学生が集まるというだけあって、中村先生の講座はジェスチャーたっぷりの、活気あふれる、とても楽しいものだった。なじみ深いソナチネをわかり易くアナリーゼして下さい、「身近な題材から楽しみながら自分の曲を創る」ということを教えて下さった。

## 「新しいソナチネを演奏しよう」

ローレンス・マックガレル氏



「ソナチネを暗譜するためには、まず各楽章の形式を分析してみましょう。」

前期夏期研修会の最後を飾るマックガレル先生は、私たちにとって耳新しいソナチネの数々をお話と演奏で紹介して下さいました。

バスティンのソナチネから始まり、スター、ギロック、アゲイとまず形式を研究し、練習する場合、暗譜する場合のアドバイスなど盛り込み、その講座の運び方は見事であった。

## 「私の芸術観、日頃思うこと」

石井 敏氏



「音楽を愛する心に人間があるのだと思います。」

作曲家の立場からどのように自分の曲を演奏してほしいか、楽譜から何を読みとるか、幅広い音楽体験からピアノの特質について等、興味深いお話をたくさん聞かせていただいた。後半、村川章之君、弓削田優子さんの演奏で「音のメルヘン」が紹介されたが、パレエ曲のように絵画的、詩情豊かな、楽しい曲集であった。

## 「小品からソナタの演奏へ」

田村 宏氏



「ピアノで鳴らすということは、歌おうという気持ちで歌う時にピアノの音が鳴ることなのです。」

PTNAオーデションの審査委員長としておなじみの田村宏先生に、今回は、ブルグミュラー、ソナタの演奏法を、公開レッスンという形で御指導していただいた。ピアノで歌うこと、アクセント、メロディの流れなど詳しく説明して下さい、またお話の中では、ピアノ音楽に対する厳しい姿勢というものを教えて下さった。

## 「ピアノでアンサンブルを 楽しもう」

中田喜直氏



「子供のころから連弾に親しむことで、人に合わせることで、テンポやリズムの正確さが身につきます。」

昨年に続いての中田先生の講座は、広く親しまれている「夏の思い出」の八手連弾など子供のための連弾曲について、先生の幼少の頃のお話など混え、親しみやすいムードで続けられた。

子供たちの演奏に続いて、先生自ら演奏して下さい、とても楽しいアンサンブルの一時をすごした。

## 「ドビュッシー前奏曲・Ⅱ巻の 演奏の法」

ヨゼフ・プロッホ氏



この曲集は最初と最後が同じ音で「<sup>サヘール</sup>踊り」のようにつながれ、永遠に繰り返されるイメージを持っています。」

ドビュッシーの前奏曲Ⅱ巻は、1曲1曲が優れたエチュードであるが、調の関連、同一のリズムや音などによって全12曲が大きな1つの作品になっている。プロッホ先生は、タイトルにまつわるエピソードの数々も盛り込まれ、興味深い講義を展開された。

## 「連弾演奏と2台のピアノによる 四手演奏との違いと共通点」

ロトー夫妻

子供のためのジョン・ジョージ／コンフィギュレーションから、ショパン／ロンド、フォーレ／ドーリイまで、連弾、四手演奏について御指導頂いた。

お二人の講義はぴったりと息が合い、夫妻そろってのデュオはさすがにリズム、テンポも見事に合って、音色の美しさは抜群であった。



「相手をよく聞くということは、結局自分を聞くということなのです。」

## 「ソナチネ・アルバムの たのしいおけいこ」

深沢亮子氏

誰でも弾くソナチネ・アルバムを、曲の構成のつかみ方、強弱記号の弾き分け、イントネーションの表現などに重点を置き、その指導法についてお話し下さった。ソナチネは小さいながらもその中にむずかしい要素も含んでおり、料理のしかたで曲がいかに生きてくるかを、レッスンを通して教えて頂いた。



「先日レコーディングで久しぶりにソナチネを弾いて、こんな美しい曲だったのかと驚きました。」

## 「シューマン／子供の情景 全曲 演奏と解釈」

ヨゼフ・ブロッホ氏

シューマンの曲には2つの大きな特徴がある；①モチーフから発展させる（アベッグ変奏曲）②小さな曲の集まりという形式を取る（謝肉祭、クライス・レリアーナ）。子供の情景全13曲を、テンポ、イメージモチーフの説明を加え、すばらしい演奏で聞かせて下さった。



「後にクララ・シューマンがメトロノーム・マークを書きかえているということに注意してください。」

ピアノ・オルガン・エレクトーン

**ヲガタ楽器**

（福島県南支部のお世話をしております）

〒961 福島県白河市中町36の6  
TEL 02482 (3) 3270

楽器・レコード

**タカノ楽器**

（浜通り支部のお世話をしております）

〒975 福島県原町市栄町3の16  
TEL 02442-2-3158